

芭蕉元祿事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十九年七月度 入選句（投稿総数三千六句・一般投句数四百九十五句）

特選

選者 田中青志

田水張り輪中輝く日なりけり

大垣市

神野 武彦

輪中の最も輝く日 それは田植の前日一斉に田に水の張られた時、舞台の開く前の緊張感とでも表現出来ようか、一瞬湖が出現したかの明るさ村を写し空を写し山紫水明の世界が出来上る、やがて早苗が運ばれてくるであろう水張り田が固唾を呑んで待っている。

買ひまどふ鏡の中のサングラス

不破郡垂井町

西田 厚堂

サングラス単体の格好よさではなく己とのセットの格好よさを求めているのが鏡の中のサングラスである。

曾て己のイメージの中のサングラスは若き頃の裕次郎とか渡哲也か。

今更、肩で風切る格好よさは期待してはいないが、自分なりのサングラスのイメージを鏡の中に求めているのである。

老鶯や峡の深きに人住まふ

大垣市

日比野 友子

こんなところに住む人は、恐らく戦を逃れて安住の地を求めて来た末裔なのかも知れない。住めば都、喧噪な都会には程遠い朝な夕な老鶯のそして郭公の鳴く山里、四囲深山に囲まれた峡の里、そんな人たちの生き方聞いてみたい興味が湧く。

秀逸

時の日や叩けば動く古時計

大垣市

棚橋 みさを

見舞客笑顔と西瓜置いてゆく

大垣市

枯れ 尾花

古家や屋根にスカンポ屈きそう

大垣市

永島 みすゑ

工場はいま昼休み蟬時雨

大垣市

宮上 美濃留

揚羽とぶ優しき父は天におり

京都府宇治市

椎原 園美

睡蓮やゆるりと鯉の見えかくれ

大垣市

尾関 逸子

風鈴に朝の優しき音色かな

大垣市

多和田 一徳

波音に確かな力夏の海

大垣市

島岡 嘉明

父の日の父へフルート吹きにけり

東京都北区

菱沼 多美子

短夜や数える羊多すぎて

兵庫県尼崎市

佐々木 啓川

入選

一つ家に表札ふたつ燕来る  
墨俣城梅雨の大河を迎へ討つ  
手囲いの蛍を放つ闇の中  
夏のれん動き休まぬ祖母哀し  
石楠花や村中渡る朝の鐘  
更衣鏡の中の若作り  
蛍火の一つひとつの息づかひ  
学び舎の雑巾かけて夏の蝶  
驚草のすべてを神は司る  
佇める卒寿の父や百日紅

安八郡神戸町 高橋 日出美  
愛知県岡崎市 坂元 英征  
不破郡垂井町 中嶋 笑子  
岐阜市 富永 萬里  
不破郡垂井町 内海 白涛  
大垣市 富井 あや子  
不破郡垂井町 児玉 信子  
海津市 水谷 勲一  
京都府宇治市 八田 弥須子  
岐阜市 堀江 美州

入選

足跡のにごり新し余り苗  
日日草何するで無き日を送る  
胸に受く重き花束百合匂ふ  
雨上り茅の輪くぐりし杖の人  
涼風のごとき挨拶通学児  
長考の末の投了牛蛙  
闇といふたのしきものに蛍かな  
光透く海月の色は水の色  
五月雨の垂るるがままに杉木立  
雨けぶる明月院の七変化

大垣市 佐藤 すみ子  
大垣市 野村 多佳子  
大垣市 田中 雅子  
大垣市 岡田 あや子  
大垣市 北浦 典子  
京都府京都市 石田 江州  
長野県下伊那郡 長沼 まさし  
神奈川県横浜市 龍野 ひろし  
神奈川県川崎市 佐藤 廣枝  
三重県四日市市 後藤 允孝

選者吟

形代へ吹く息腹の底の息

青 志